

PRESSCAFE

- 物件名：PRESSCAFE（カフェ）
- 住所：色内3-3-21
- 電話：24-8028
- 所有者：株式会社サウンドクルー小樽
- 運営者：稲葉圭計（経営者）
- 人員：8人
- 建物履歴：
 - 明治28年 遠藤又兵衛倉庫→洪澤倉庫→ブルーハウス
 - 平成3年 小樽市歴史的建造物指定
 - 平成18年 PRESSCAFE
 - 平成22年 小樽GOLD STONE購入
 - 平成23年 小樽市都市景観賞



外観

■外観

外観は損傷もなく丈夫な倉庫であったため、業務用の看板を設置した程度で、ほとんど手を加えていない。クラシックカー展示。

■内観

ブルーハウス時代に腰壁・石膏ボード壁・カウンター・床が整備されていたことから、防寒のために入口に二重扉を設置。

■内容

稲葉氏は札幌でプレスカフェを運営していたが、立ち退きを迫られ、一部厭世観と共に、代替地として誘われた場所が、全くの異次元で非日常感漂う運河沿いの石造倉庫。運河の水面に映る月が倉庫壁に反射する景色、夜中でも海鳥が鳴く音、置き去りにされるにはあまりにもったいない環境、一目で再出発を決めた。

プレスカフェの「PRESS」とはプレッシャーから「自分の意見を押しつける」という隠語で使用されているらしい。札幌時代から空手やクラシックカー、そして本物の珈琲やカレーに興味を抱き、ハードボイルドで生きてきた稲葉氏に相応しいことから命名。だから満面笑顔でサービスするわけではないが、この疎外感が場末の石造倉庫カフェに実にマッチ。

■コンセプト

道内のクラシックカー愛好家の間では有名、自らも機会があれば販売をしている関係から、PRESSCAFEを小樽オープン時以来、愛好家の支援を受け、次第に客層が開け、市内のお客様も定着。

■客層

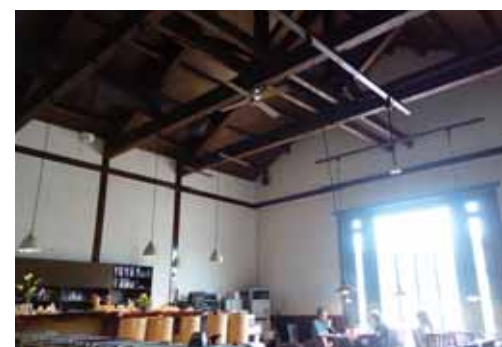
30代～60代のカップルが大半。
冬は市内客、夏は観光客。



粋なアプローチ



稲葉圭計氏



吹き抜けのゆったりとした店内



店主の愛車ディスプレイ



カウンター席



札幌時代のPRESSCAFE



防寒用二重扉



梁とダクトの素朴なコントラスト